第 2015-15 号

恵みと真理のニュース

2015 年 4 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　私が生まれる前から私を知り救いと使命をあらかじめ予定した主、私の全てが主の恵みです

子供の頃母をついて教会に通いました。罪と救いが何かイエス様はどなたなのかなぜ礼拝を捧げるべきかも知らないまま日曜日は必ず教会に行く日だと思いました。母も子供の頃から通いましたが真実な信仰生活ではなくて恥ずかしいと言われました。それで私も生まれてから教会に通いますかと聴くとただ笑いました。
　母が私を妊娠してまもなく急性盲腸炎にかかりました。子供を亡くしなければならないと医師から言われその場で泣きながら私の子供を助けてくださいと膝をまずいて切に祈ったそうです。切ない祈りで母は私を妊娠した状態で手術を受けましたが私は明るい光を見るようになり呼吸をして生きています。私と母に対する神様の愛が大きくて深いことを育ちながら知るようになりました。大変な危機で神様は母の祈りに答えてくださり、私をこの地で生まれるように導いてくださいました。それで私が生まれた日は神様が私と母二人の生命を生かしてくださった日です。
予定になっても出産の気味がなくて母と父は涙を流しながら祈りました。親が私のため経験した苦労が私の対する神様の愛だと信じ感謝しています。なぜなら、この世の誰よりも大きい親の祈りと神様の愛の中で生まれ育ったからです。手術で私を生まなければならない状況で経済的にも大変で手術費もかかって病院も家の近くになかったです。それで父は泣きながら親戚の家で手術費を借りてその時に母はお仲にある私のため涙で祈ったそうです。その時に神様の助け手を与えて無事に手術を受け私を産みました。
私の出生に関する話を聞いて思春期が過ぎて青年になり生きる事が辛くて苦しい時には生まれたことを恨みました。このように苦しむ人生を過ごせると私を連れて行って欲しいですと不平不満をを言いました。陶工で私を作ってくださった天の父を疑って多くの時間信じなくて生きてきました。しかし、振り替えてみると神様は辛いことに私のため摂理して私が願っていたことより良いもので満たしてくださったことを悟りました。
私が生まれるその日から特別だった母との関係は相変わらず神様の恵みで愛の中でつながっています。母は脳卒中で体が不便です。それで、今まで母の手足となりました。現在は母の状態がよくなり私の助けなしでも教会に行って礼拝も捧げ主の奉仕もしています。主の恵みです。
母が脳卒中で倒れた時には主を恨みました。しかし、ここでも私に対する主の深い愛がありました。教会には通っていましたが私は主に属した子供ではなく世の人々と同じでした。母の祈りと主の恵みで大学に入って主を捧げるより友達と遊ぶのが好きでした。日曜日に母が教会に行くと言う言葉にも反抗をしながら母とけんかもしました。その時主日だけは教会に行くことを守るように導いてくださった母に感謝しています。
たとえ平日には自分のとおりに生きて病弱な母の願いなので仕方なく教会に行って悔い改めて祈りして自分の祈りはしなくて母と家族のために祈りました。そうしながら主の御言葉と聖霊の働きで信仰が育って主を真実に信じ愛するようになりました。私の信仰生活に協力者だった母がしばらく教会と主と離れた時、私は母がわたしのため祈ったように母の信仰の回復と全ての救いのため神様の仰ぎながら切に祈りました。　神様は母を捨てなくて私の祈りに答えてくださいました。
母は主の所に戻って以前よりもっと強い信仰を持つようになりました。父も私の願のとおり神様を信頼して神様に祈る祈りの勇士になりました。そして家族が交互に彷徨する時にひたすら主を委ね愛した妹は主の導きで遠いエルサルバドルに行って献身してから戻って来て神様が下さった夢を成しとけるため最善を尽くして主の子供としてきれいに作られています。
　私は子供のごろから作家になることが夢でした。文章を書くのが好きでしたが主が下さったタレントで私が目立つ事だと思いました。神様に祈りながら神様の末子という言葉を良く使います。良くしたこともないのに愛してくださる神様にこねる表現です。３年前は特にこのような表現で神様にこねました。　母を介護しながら夢を成し遂げるため努力する生活は広野の生活でした。日々が大変でした。私は大学で文芸創作を専攻して副専攻で新聞放送学を勉強しました。そうしながら記者になりを改善して変革する仕事をしようと思い新しい目標を立って努力しました。私が持った能力では出来ない夢でしたが切に祈ると道を開いてくださいました。難しく入った記者の世界と言論環境は主を信じ仕える私には苦しかったです。お酒の文化と周りの人がみんな男なので様々な大変でした。主が私と共におられ慰めと励まされる一年でした。主が共におられなかったら出来ませんでした。
大変な日常と戦うある日私は主に出会いました。仕事が終わって家に戻るときに全ての苦労退勤して教会に走って行きました。誰もいない聖殿で泣きました。祈る時間に私に言われました。
　“愛する私の娘、ジョンウン！今世で願いこと成し遂げるのが過ぎると全部空しくなるんだ。何よりも神霊な満足と喜びを得るため力を尽くしなさい。私があなたに願うのは変わらずあなたが私の中に私もあなたの中にいることだ。”私は主に多くの愛を受けました。どころが、主は私に願う事は一つ主を愛する心一つだと言われました。
私ははじめ記者と職業を持つため祈るときに神様に一年間働いてくださいと祈りました。どうしても忍耐して１年が過ぎていつからその仕事が好きで１年以上続けてしたいと思いました。どころが、主は私を知って約束した１年が過ぎてその仕事を辞めるようになりました。その代り論述学院で子供を教える仕事を許可してくださいました。経済的に以前よりもっとよくなりました。余裕も出来て文書を書けることが出来ました。何よりも信仰生活にも疎かにならなくなりました。
　その日から私の人生は主のものになり変り始めました。“私はこれから天の父の末子ではなく全てを信じ委ねる長女になります。”心に決心しました。神様は希望部で教師として仕えるように導いてくださり恵みを与えてくださいました。希望部はダウン症候群、自閉など発達傷害がある人と奉仕する先生と共に神様を礼拝して純粋と熱い信仰で一つになり祈る愛を分かち合う部署です。この世の誰よりも神様に美しい賛美を神様に捧げ一人の魂を尊く思う神様の愛を確認して一人一人が神様の愛と尊い存在で認められ主の喜びを分かち合います。この前、教師セミナーで当会長の牧師から５年勤続賞を受けて今まで導いた恵みに感謝しながら喜びで神様に栄光を捧げました。
私は今子供の頃から願っていた作家の夢を追っています。人々が知る作家ではありません。私を愛して私が愛する神様の栄光を現れる作家になり人々の心に福音を種をまく作家になりたいです。また、世の人々から褒められるのではなく神様たけに褒められる作家になりたくて今日も祈る心で文書を書いています。この夢も成し遂げてくださる事を信じます。ハレルヤ！

［信仰コラム］　重大な仰せと貴重な約束

″そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。信じる者には、このようなしるしが伴う。 …″(マルコによる福音書　16:15~20)

イエスは復活した日から昇天する前まで 40 日間、弟子たちに分かったし,いろいろお話をしました。 本文の言葉もその中に属します。 この言葉には重大な仰せと貴重な約束があります。

第一に、イエス様がお申し付けた言葉をご覧ください。″お前たちは天下に通いながら、万民に福音を伝えると″と言いました。 イエス・キリストを信じる者に最も大きな使命は、福音を伝播することです。 効果的な福音の伝播に向けては様々な手段と方法、団体と組織が必要です。 その中で最も中枢的な役割をするのが教会です。 信者たちは誰でも教会の一員になって福音の伝播の使命を遂行しなければなりません。 教会の使命のうち、私の仕事は福音の伝播です。 福音の伝播の範囲と対象はきた天下万民です。 きた世界万民に福音が伝えられなければならない理由が本文に記録されています。 ″信じて洗礼を受けている人は救援を得ることであり″しました。 洗礼儀式自体が罪を洗ったり、救いを得るようにすることはないが、神様が立てて命じた神聖な儀式なので本当に信じる者ならば嬉しく参詣しなければなりません。 そして″信じない人は罪定めを受けと″しました。 ’浄罪を受けと’いう言葉は裁判時に使用する法廷用語として’判決を受ける。’’罪に該当する罰を下す。’いう意味です。 終末論的な意味を持った単語としてイエス・キリストを信じない人は最後の審判台で永遠の刑罰を受けるようになることを指します。
人が救いを受けるか、罪定めを受けるかするのは、人の身分、血統、先行、人柄や業績、能力、教育、修養などは一切排除され、イエスキリストを信じるか信じないか、信じないかということだけで決定されます。 人がこの世に生きることで得られる機会中に最も重大な機会は救援得る機会です。 したがって、他の人に福音を伝播して救援を得るようにすることより善良で価値のあることはありません。

第二に、イエス様が約束したよる標的をご覧ください。悪霊を追い出しとしました。 聖書は、幽霊の正体と活動について最も正確な知識を提供しています。 汚い鬼神も会ってうそする鬼神もおり、悪い鬼神もあり、魅惑させている影島あります。 また、占う鬼神もあり、脚色疾病をもたらす鬼もあります。 鬼を恐れるのではなく、イエス・キリストの名で闘って退けなければならないです。 新しい方言を話すとしました。 方言は聖霊の洗礼の標的と聖霊の恩師の一つです。 また、蛇を取っても害を受けないとしました。 使徒パウロが裁判を受けるため、ローマへ行く道に船が難破の直前に達し、メリデという島に入った時、パウロは毒蛇に手を噛まれても無事しました。 もちろん、福音を伝える過程で神様がこのような標的を注ぐという約束であり、我々が自分を誇示したり、試しにそんなことをしろというのはありません。

また、何の毒を飲んても害を受けないものします。 今日にこの言葉はさらに切実な恩のことばで理解されます。 環境が汚染しすぎて大気、水、穀物、果物など毒がないことがありません。 そのため、その約束の言葉を信じることでつかんで標的がいつも従うことにしてほしいと祈りすることを望みます。 病んだ者に手を当てたから,治るとしました。 初代教会で、これまでこのような標的は常によっています。
イエス様が約束した言葉はすべての信者にこのような標的が伴うという約束の言葉であるだけでなく、標的が従うことを信頼と期待し、求めよという意味もあります。 よっている標的に関しては誤解がないようにしなければなりません。 このような標的が伴うとしたものであって、このような標的が伴わなければならないとしなかったです。 標的が従うのは、ただ神様の主権的な歴史によるものです。 ただ、私たちは福音を伝える、標的が従うことを信じて行わなければなりません。。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

聖 霊 充 満

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は聖霊充満に関してよく見ます。 ある人々は聖霊バプテスマと聖霊充満を同一に見るかと言えば、また他の人々はこのふたつを完全に他の別の体験だと教えます。そしてどんな人々は聖霊充満をずっと維持するためには聖霊バプテスマを繰り返して受けなければならないと教えています。 この教えは聖書を部分的に見て偏狭に解釈するから生ずるエラーです。

先に、二つの種類の聖霊充満に対してよく見ます。

第一は、持続的で一貫された状態を形容する “充満”があります。

ルカによる福音書 4 章 1 節に “さて、イエスは聖霊に満ちてヨルダン川から帰り、荒野を四十日のあいだ御霊にひきまわされて、悪魔の試みにあわれた。そのあいだ何も食べず、その日数がつきると、空腹になられた。”と記録されています。 使徒行伝を見ればエルサレム教会で七人の執事を選出する時その資格基準を“聖霊と知恵が充満”と、“信仰と聖霊が充満する人”と言いました。 スデバナ執事に対して “恵みと権能が充満して大きい奇事と標的を民間に行って”と描写されています。 そして彼の殉教場面で “彼は聖霊に満たされて、天を見つめていると、神の栄光が現れ、イエスが神の右に立っておられるのが見えた。”と言及されました (使徒行伝 7:55) このような場合の聖霊充満は持続的で一貫されるように充満する状態です。

二番目は、しばらく間急に経験する状態を形容する “充満”があります。

どんな任務を遂行するために日時の間だけ聖霊のツングマンハムを受けるようになった例を見ます。 バプテスマヨハネの母親エルリザベトがマリアのあいさつを受けた時子供がエルリザベトの腹の中で遊び回りました。 その時エルリザベトが聖霊の充満を着て大きい音で叫んで言うのを “声高く叫んで言った、「あなたは女の中で祝福されたかた、あなたの胎の実も祝福されています。”(ルカによる福音書 1:42)と言いました。 このように使役や予言と関わる聖霊充満が五旬節の聖霊の降臨以後には福音伝播と関わる聖霊充満でつながります。 その例をよく見ます。

第一、五旬節の日イエス様の弟子皆が聖霊充満を受けました。 五旬節の日ある屋根の裏部屋に集まって祈った 120 人の弟子が皆聖霊充満を受けて他の方言で言い始めました。 この驚くべきな光景を見ようと群衆が集まったが聖霊で充満するペテロとヨハネが彼らに福音を伝えたら三千人が悔い改めて福音を信じてバプテスマを受けました。

第二、ペテロは官員と祭司に聖霊充満して福音を伝えました。

ペテロとヨハネが聖殿の美門の前に座って物乞いするいざりをイエスキリストの名前で命じて歩かせた後群衆に福音を伝えたら五千人の人がイエス様を信じるようになりました。 すると祭司と聖殿の警備の大将とサドカイ人が激怒してペテロとヨハネを逮捕しました。 翌日、彼らが使徒に “君達が何の能力と誰の名前にこの事をしたのか?” と審問しました。 その時ペテロが聖霊が充満してイエスキリストの名前でいざりが元気になったということを証拠して“この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」” (使徒行伝 4:12)で宣布しました。

第三、イエス様の弟子は重ねて聖霊で充満して大胆に福音を伝えました。 ペテロとヨハネが仲間に行って祭司と長老が自分たちに脅威した言葉をすべて伝えました。 彼らがその言葉をきいて心から祈りました。 彼らが祈祷を終えるや集まった所が震動したし、皆が聖霊で充満して神様のお言葉を胆大に伝えました。

第四、パウロは聖霊で充満になるとまっすぐに福音を伝えました。 パウロは一時基督教会を迫害を加える事に先に立ちました。 しかしダメセックに行く途中に主イエスキリストにお会いできたし聖霊で充満するようになりました。 パウロはダメセックにあるクリスチャンと何日を一緒にあるうちに直ちに会堂で福音を伝えました。

五番目、パウロは聖霊が充満して宣教活動を活発にさせました。 パウロはアンデーオク教会で働く中に聖霊様の指示でバナバとともに宣教師になって出発しました。 パウロ連中がキプロス島のパポという所に至って総督ソギオにパウロが福音を伝える機会を持ちました。 ところで魔術師であるエルルマが邪魔しました。 パウロが “聖霊が充満して彼を注目して” 彼に厳しくとがめると直ちにエルルマの目がくらくなりました。 この事件を目撃した総督はパウロが伝えた福音を信じました。 パウロ連中は行く所ごとに逼迫がひどかったが皆が “喜びと聖霊が充満”(使徒行伝 13:52)したと聖書に記録されています。 このように聖霊充満は“福音伝播”と密接な関係があります。 このような “聖霊充満”は暫定的で一時的なのです。 だからクリスチャンは福音を能力のあるように伝えるために繰り返し “聖霊充満”を受けなければなりません。
ある聖書学者は聖霊充満を “内的充満と外的充満”で区分します。 “内的充満”はイエスキリストの性分を似つつあるクリスチャンの人格と関わっていて、したがって聖霊の実と深い関係があると言いました。 そして “外的充満”はキリストの福音を効果的に伝えるために能力を受けて武装することと関連があると説明しました。 聖霊充満を “持続的充満と暫定的充満”で区分してもあるいは “内的充満と外的充満”で区分しても根本的な概念自体は同じです。 要約すれば、“聖霊充満” の中 “持続的充満あるいは内的充満”は聖徒がキリストの性分を似つつあらせます。 聖霊の実を結ぶことと関わったのです。 “聖霊充満” の中 “暫定的充満あるいは外的充満”は権能を受けて福音を伝えることと関わったのです。

次は、“聖霊充満を受けなさい”と言う命令に関してよく見ます。

新約聖書には聖霊に対する啓示が漸進的に拡がっていることを見られます。使徒行伝はおもに“福音伝播”と関わる聖霊充満を扱っている一方パウロ書信はおもにクリスチャンの品性の変化に関わる聖霊充満を扱っています。

エペソ人への手紙 5 章 18 節に記録されるのを“酒に酔ってはいけない。それは乱行のもとである。むしろ御霊に満たされて、” しました。 ここで言っている “聖霊の充満”は聖霊バプテスマでもなくて、予言と方言など聖霊の賜物と関わった事でもないです。 これはクリスチャンの行為と性分に関わったのです。 聖霊で充満する人は聖霊様の指示と統制を受けます。 “聖霊充満を受けなさい”と言うお言葉は私たちの意識と行動がイエスキリストによって全面的に統制を受けるようにしなさいという意味です。
“聖霊充満を受けなさい”と言うお言葉に使われた動詞を文法的に分析してよく見ます 第一、動詞の時制が現在型です。 持続的に聖霊充満状態になければなりません 第二、命令形動詞です。 聖徒に聖霊充満は必須です。 第三、復数型動詞です。
すべてのクリスチャンが聖霊で充満しなければなりません。 第四、受動型です。 イエスキリストがおっしゃるのを “父が私の名前に送る聖霊”と言いました。 使徒ペテロは雲集した聴衆に “聖霊を賜物で受ける”と言ったし、サマリア聖徒が聖霊受けることに対して “神様の賜物”と言いました。 そしてペテロはゴネルリョの家に集まった人々が聖霊を受けたことを示して “このように、わたしたちが主イエス・キリストを信じた時に下さったのと同じ賜物を、神が彼らにもお与えになったとすれば、わたしのような者が、どうして神を妨げることができようか」。”(使徒行伝 11:17)と言いました。 だから聖霊充満は人為的にできるのではないです。 父の神様とイエス様が送る賜物です。 聖徒は聖霊充満を賜物でもらうようになります。

終りに、三種類の質問に対する答をよく見ます。

第一、私たちがいつも聖霊で充満しようとすればどうすれば良いですか?
いつも聖霊で充満するのを切に望まなければなりません。 聖霊様の助けを求めなければなりません。 聖霊様の導くことと指示するのを徹底的に従順しなければなりません。 続いて聖霊様の治めるを受けなければなりません。

第二、自分が聖霊で充満する状態にあるのかないのかをどのように分別しますか?
聖霊で充満すれば礼拝を重く思います。 神様が下さる恵みを思って喜んでありがとうございます。伝道と神様の仕事に力をつくすようになります。 愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制の実を結びます。

第三、聖霊様は神様なのに “聖霊で充満する。” “聖霊を消滅する。” というのが適当な表現になりますか?
“聖霊で充満する。” というのは聖徒自分の知性と感情と意志が聖霊様の治める下にある状態を言います。 “聖霊を消滅するな。” というのは “聖霊様の引導をことわらないです。” “聖霊様がくださる聖なる欲望を抑制するな。” “聖霊様の指示を拒否するな。” という意味です。

聖徒の皆さんには “聖霊充満を受けなさい”と言うお言葉が実在的な体験になって持続的な状態になると願います。 そして礼拝が生活の中心になって、主にあっていつも喜んですべてに感謝して、伝道と神様の仕事に力をつくして、御霊の実 愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制の実のますますもっと豊富になるように願いします。